燒夕の岬

白秋民謠

9

ARS

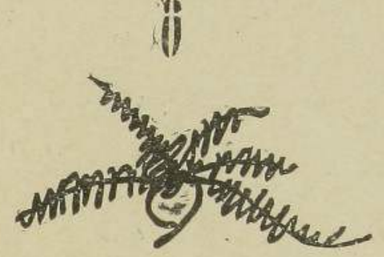
白秋民謠の言葉

蕪の二つ三つと、
鰯のひとつかみと、
たつたそれだけで代へてもらひたいのだ、
わたしのこの民謠と。
そして、歌つてもらひたいのだ。

岬の夕焼

近海調　其一

北原白秋著



白秋民謡

9

目次

鮪　組　十四章……三
旅の大船　二　章……四三
烏賊つり舟　八　章……二一
沖の大船　二　章……四四
かかり船　二　章……二七
親船小船　二　章……四六
今宵今晩　二　章……三〇
涙の音　四　章……四八
夜積の掛聲……三三
鯱と海豚　二　章……五一
搗布とたんぽぽ二章……三七
三浦三崎……五三
搗布焼く火　三　章……三九

岬の夕燒

小序

三浦三崎は南風の港である。華やかな夕燒の、また烏賊釣舟の、女の、陀々羅遊びの萬祝衣の、とりわけて夏の月夜の港である。城ヶ島の燈明臺の灯は綠に、夜積の掛聲は夜霧にさびしく、搗布燒く火も磯濱なれば汐に煙りて赤く黃色く濕りがちながゝ鄙びてゐる。

三浦三崎は女の夜業、男後生樂寢て待ちる

三浦城ヶ島にどんと打つ浪はかはい男の度胸だめし

鮪組

1

南風だ、船出だ、
鮪漁だ、組だ。
えいそら、〳〵。
ただこの意氣だぞ、

裸でやつつけ。

今に鮪の
富士の山。

えいそら、〳〵。

2

一度家を出りや、
女房、子もあろか。

えいそら、〳〵。

ただこの意氣だぞ、
早櫓ですつ飛べ。

意氣は三崎の
鮪組。

えいそら、〳〵。

3

時化けよ、しけの風、
どんと吹いてござれ。
えいそら、〳〵。

ただこの意氣だぞ、
三崎の若衆だ。

腕に筋金、
赤ふどし。

えいそら、〳〵。

4

鯱のお荒れだ、
女沙魚よ、時化だ。
えいそら、〳〵。

ただこの意氣だぞ、
なに糞、乘り上げ。

雑魚も鰯も
そりや逃げた。
えいそら、〳〵。

5

時化を相手に
荒灘かせぎ。
えいそら、〳〵。

ただこの意氣だぞ、
運を天に任した。
肌の守りは
象頭山。
えいそら、〳〵。

6

どうで惚れるなら

鮪の雌よ。

えいそら、〳〵。

ただこの意氣だぞ。
男の意氣地だ。

豆の女雜魚に
用は無い。

えいそら、〳〵。

7

潮だ、早瀨だ、
そりやこそ、鮪。

えいそら、〳〵。

ただこの意氣だぞ、
占めたぞ、追つかけ。

海は鰯の

雪なだれ。

えいそら、〳〵。

8

風は南風のかぜ、
八挺櫓の櫓風。

えいそら、〳〵。

ただこの意氣だぞ、

一氣にやつつけ。

灘は相模灘、
初鮪。

えいそら、〳〵。

9

濱の五十集で、
見せたいものは。

えいそら、〳〵。

ただこの意氣だぞ、
もう一息だぞ。

鮪の胴切り、
沙魚の尻。

えいそら、〳〵。

漕いで漕いで漕いで、
北條の入江。

えいそら、〳〵。

ただこの意氣だぞ、
見えたぞ、燈だ。

晩にや、大漁の
お酒宴。

えいそら、〳〵。

11

揃ろた、揃ろたよ、
大鮪がそろた。
えいそら、〳〵。
ただこの意氣だぞ、
素つ裸で引揚げた。
かつげ、勇みの

伊達仲仕。
えいそら、〳〵。

12

俺が萬祝衣
朝日に波よ。
えいそら、〳〵。
ただこの意氣だぞ、

男の伊達だぞ。

潮の鮪の
飛ぶところ。
えいそら、〳〵。

13

三崎城ケ嶋は
鵜のすむ島よ。

えいそら、〳〵。

ただこの意氣だぞ、
大漁だ、〳〵。

鵜のみ、酒のみ、
だだら飲み。
えいそら、〳〵。

14

女ろよ、惚れるなら、
鮪組に惚れろ。
えいそら、〳〵。

たたこの意氣だぞ、
脊負つて立つた、〳〵。

命知らずの
情知り。
えいそら、〳〵。

烏賊つり舟

1

一寸と時化たが、
烏賊つり小舟、
小燒、夕燒、
早や出やる。

2

すぐに點けたか、
ちらちら漁火、
烏賊の墨いろ、
沖や暮れた。

3

夜も夜中も

あの沖漁火、
なにを釣るやら、
ちらちらと。

4

おやぢさまなら
また烏賊つりに、
夜も夜中も
沖がかり。

5

夜釣やいやなもの、
鬼火に小雨、
不在にや間夫引き
お花札引き。

6

沖にや幽靈、

陸には間夫よ、
干杓貸しやれよ、
嗅貸しやれ。

7

しんとふけたで
夜は凄ござる。
烏賊が鳴きます、
舟底で。

8

どうせ、時化だよ、
烏賊つり舟よ。
小焼、朝焼、
すぐ歸る。

かかり船

尺八調

1

三崎よいとこ、
女子の港、
宵は入船、
もやひ船。

もやひ船なら
一夜はごんせ、
明日が雨なら、
またごんせ。

2

三崎よいとこ
女子の港、
せめて、一夜、

かかり船。

かかり船なら
濡れよとままよ、
どうせ、夜明けりや、
また、出船。

今宵今晩

尺八調

1

今宵、今晩、
また船がかり、
祝ひましよぞえ、
お十五夜。

お十五夜なら、
芒にお芋、
たのみますぞえ、
となり船。

2

となり船かよ、
ごきげんさんか、
丸にいの字の

窓燈。

今宵、今晩、
梶差し寄せて、
一晩寝たらば
西ひがし。

夜積みの掛聲

えんやらさアの、どつこいさ、
そりや、えんやらさアの、どつこいさ。
女子の三崎じや、後生樂じや、
魚の三崎じや、どつこいさ。
そりや、えんやらさアの、どつこいさ。

まんざらいなでもくるまえび、
こちらも甘鯛、どつこいさ。
そりや、えんやらさアの、どつこいさ。
さはらばむろ鰺、きす、こはだ、
いよいよしめ鯖、どつこいさ。
そりや、えんやらさアの、どつこいさ。
お金をかますが、舌びらめ、

ぼられて、ふられて、どつこいさ。
そりや、えんやらさアの、どつこいさ。
おごぜが怒つた、針出した、
ふくれりや虎河豚、どつこいさ、
そりや、えんやらさアの、どつこいさ。
ぼうぼうで逃げ出し、太刀の魚、
やつとこ、すみ烏賊、どつこいさ。
そりや、えんやらさアの、どつこいさ。

その後やしら魚、飛びの魚
コリコリ海鼠で、どつこいさ。
そりや、えんやらさアの、どつこいさ。

えんやらさアの、どつこいさ、
そりや、えんやらさアの、どつこいさ。

搗布とたんぽぽ

いつしかに春のなごりとなりにけり
昆布干場のたんぽぽの花　（桐の花）

・1

搗布干そとて、
たんぽぽ路めば、よう、
春も末かよ、
のよ、様よ。

2

搗布干場の
たんぽぽなれば、よう、
果ては吹かれて、
汐のする。

搗布燒く火

1

搗布燒く火よ、
なぜ、燃えつかぬ。
汐のしぶきで
燃えつかぬ。

搗布焼く火と、
誰かさんのたより、
しほがつよいか、
まだつかぬ。

搗布焼く火よ、

夜は夜で燃えて、
晝はしぶきの
汐の中。

旅の大船

1

旅の大船
錨をおろし、
月のほばしら、
うしろ梶。

2

月の大船
笛吹き澄まし、
うしろ梶だで、
寄りや暗い。

沖の大船

1

沖の大船
月の出でござる。
明日の日和が
焼けござる。

2

沖の大船
夜の明けござる。
南風の日和が
焼けござる。

親船小船

1

沖の大船
ありや、親船よ、
見やれ、ゆさりとも
帆は揺れぬ。

2

おいら、小傳馬の
まだ親がかり、
いろのろの字の
櫓も持たぬ。

浪の音

1

山で大鋸挽きや、
日かげの長さ。
浪の音聽きや、
日の永さ。

2

浪の音聽きや、
まだ日は永い。
山は辛夷の
花ざかり。

3

あれは鷗か、

日和の海か。
山は檜の
晝の霧。

4

山に日暮れて
ひもじい時は、
沖の大船
見て下る。

鯱と海豚

1

なんだ、なんだちゆだ、
鱗の娘だ、
灘の鯱の子だ、
父がいつ通つた。

2

なんだ、なんだちゆだ、
遠眼の兄哥だ
沖の海豚の子だ、
お母いつ寝やつた。

三浦三崎

その日ぐらしの山樵が
斧鉞かついでただ涙。
通草も眞赤にはぢきれた、
鳥もケンケン飛んでゆく、
うんとこどつこい、よいとこな、
急いで下りなきや日が暮れる。

うんとこどつこい、よいとこな。

朝は元氣な船頭衆も
夕日が轉がりや空矢聲。
浮氣な沙魚めにや逃げられる、
漕いでも漕いでも波の上、

えんやらほいほい、えんやらほいほい、
急いで上らにや子が喚く、
えんやらほいほい、えんやらほいほい。

郵使飛脚は命がけ、
いつさん走りに、豆畑、
三浦三崎にや燈かついた。
小便する間も氣が揉める、

えささえつさ、えつさつさ、
急いで馳けなきや首が切れる、
えささえつさ、えつさつさ。

岬の夕燒

定價參拾錢

版權所有

大正十二年一月一日印刷
大正十二年一月十日發行

著作者　北原白秋

發行者　北原鐵雄
東京市京橋區銀座尾張町新地五號
合資會社アルス代表者

印刷者　山本源太郎
東京市小石川區久堅町四十五番地

製本　金子

發行所　東京市京橋區銀座尾張町
合資會社アルス
電話銀座二一九三番
振替東京二四八八八番

民謡集

日本の笛

北原白秋氏著及装書 色刷扉畫 拾葉

詩壇の巨匠白秋氏の新民謡參百八拾章成る。これ民衆の言葉を以て、民衆の生活、感情を歌へる眞の民衆の詩也。南風の港に鮪を追ふ素朴なる漁夫の唄、月光の濱に濡れて立つ海女の戀、髪は背の丈、油は椿。磯燕飛ぶ八丈島の鄙唄。月は桃色宵の月、マンドリンの爪彈を偲ぶべき輕快なる都會情緒。博多帶しめ筑前絞、凄艶を極むる博多古調、南國の情熱。雪と落葉樹、北國の驛路に咽び泣くが如き追分の哀愁。悉く歌ふべく誦すべし。今や民謡隆興の秋にあたり白秋氏の新著まさに太陽の如く出でたり。

四六判箱入絹表裝美本 定價貳圓八拾錢 送料拾八錢

白秋民謡

第一輯 空に眞赤な
第二輯 さすらひの唄
第三輯 朝草刈り
第四輯 城ケ島の雨
第五輯 朝立つ虹
第六輯 朱欒の港

◇定價各冊參拾錢◇
◇送料各冊貳錢◇

白秋パンフレット

第一輯　短唱　月光微韻
第二輯　短章　落葉松
第三輯　短章　初冬の星
第四輯　詩集　動き來るもの
第五輯　民謡豐短唱　薄陽の旅
第六輯　小唄　雀の頭巾

◇定價各册參拾錢◇
◇送料各册貳錢◇

白秋童謡

第一輯　螢と苺　小杉未醒氏畫
第二輯　夢の函　前川千帆氏畫
第三輯　こんこん小山　小杉未醒氏畫
第四輯　お祭のころ　木村荘八氏畫
第五輯　お月夜のうた　森田恒友氏畫
第六輯　ねんねのお鳩　木村荘八氏畫

北原白秋氏著　菊版　定價各册參拾五錢
二度刷美本　送料各册二錢

繪入童謠

祭の笛

北原白秋氏著及裝

前川千帆氏畫　四六判絹裝極美本

本集は、白秋氏最近の童謠九十篇を收むるものにて、本集につき特記すべきは、氏が藝術自由教育の見地より、子供が樂しんで歌ひながらに、自づからその智慧をこまかく、輝やかに、その智識を深く廣く導くために作られた新風の童謠二十二篇を加へられたことである。白秋氏の美くしい新作童謠を知り併せて教育的に一生面を拓いた新童謠を知らんとする人々に特にお薦めする。

定價貳圓八拾錢　送料拾七錢